

# 公 示

準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の  
判断結果について

平成26年1月27日付け中運局公示第110号「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき、一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果を下記のとおり公示する。

なお、需給状況の判断結果の算定基礎数値は、別紙1～5のとおりである。

令和3年8月27日

中部運輸局長 嘉村 徹也

## 記

## 令和3年度における需給状況の判断結果

都道府県	営業区域名 (交通圏)	必要車両数 (両)	令和2年度末 車両数 (両)	増加可能車両 数 (両)
愛知	知 多	116	341	▲225
	尾張北部	159	381	▲222
	西三河北部	201	566	▲365
	西三河南部	117	325	▲208
	東三河南部	181	447	▲266
静岡	静 清	391	1112	▲721
	浜 松	308	868	▲560
	沼津・三島	250	630	▲380
	富士・富士宮	175	448	▲273
	藤枝・焼津	165	457	▲292
	磐田・掛川	102	301	▲199
岐阜	大 垣	88	230	▲142
	東濃西部	69	177	▲108
	東濃東部	39	124	▲85
	美濃・可児	103	242	▲139
	高 山	35	133	▲98
三重	津	100	205	▲105
	松 阪	57	138	▲81
福井	福 井	143	564	▲421
	武 生	25	61	▲36

※上記「令和2年度末車両数」は、特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法（以下「タクシー特措法」という。）第2条第9項に定める事業用自動車（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーに限る。以下「個人タクシー」という。）を除く。）の数である。

## 附 則

本公示は、令和3年8月27日より適用する。

令和3年度の準特定地域における法人タクシー（一般乗用旅客自動車運送事業（個人タクシーを除く。））の新規許可申請、条件解除の承認申請、営業区域の設定に係る事業計画変更認可申請、増車に係る事業計画変更認可申請、休車の解除に係る事業計画変更認可申請及び個人タクシーの新規許可申請について適用する。

## 1. 愛知県

## (1) 知多交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,640,595	3,099,119	0.85

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
116	2,640,595	13,720,151	0.42	82,560	0.90

## (2) 尾張北部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,377,029	3,863,568	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
159	3,377,029	15,314,890	0.42	98,864	0.90

## (3) 西三河北部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
4,183,135	4,905,689	0.85

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
201	4,183,135	20,529,021	0.43	141,056	0.90

## (4) 西三河南部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,664,542	3,147,664	0.85

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
117	2,664,542	13,112,598	0.44	84,764	0.90

(5)東三河南部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,311,741	3,836,126	0.86

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
181	3,311,741	15,319,209	0.43	119,240	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。

## 2. 静岡県

## (1) 静岡交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,954,010	9,114,698	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
391	7,954,010	33,187,266	0.45	241,910	0.90

## (2) 浜松交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,740,135	7,873,027	0.86

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
308	6,740,135	32,841,784	0.44	219,247	0.90

## (3) 沼津・三島交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,274,008	5,948,564	0.89

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
250	5,274,008	21,171,442	0.45	148,147	0.90

## (4) 富士・富士宮交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,180,643	3,673,183	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
175	3,180,643	14,588,125	0.44	117,751	0.90

(5) 藤枝・焼津交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,023,587	3,479,802	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
165	3,023,587	13,172,045	0.44	104,287	0.90

(6) 磐田・掛川交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,301,378	2,706,016	0.85

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
102	2,301,378	11,330,078	0.45	75,402	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。

## 3. 岐阜県

## (1)大垣交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,352,667	1,551,629	0.87

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
88	1,352,667	5,944,177	0.42	54,119	0.90

## (2)東濃西部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,072,633	1,259,935	0.85

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
69	1,072,633	4,937,358	0.42	44,288	0.90

## (3)東濃東部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
633,995	737,471	0.86

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
39	633,995	2,921,490	0.43	25,385	0.90

## (4)美濃・可児交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,478,693	1,675,488	0.88

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
103	1,478,693	7,085,223	0.38	61,301	0.90

(5)高山交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
496,965	630,854	0.79

必要車両数 $A \div (D \times E \div F)$ $\div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
35	496,965	3,652,704	0.43	36,533	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。

## 4. 三重県

## (1)津交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,983,687	2,165,234	0.92

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
100	1,983,687	6,718,471	0.43	48,349	0.90

## (2)松阪交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
974,384	1,115,600	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
57	974,384	4,452,524	0.43	36,784	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。

## 5. 福井県

## (1) 福井交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,471,338	2,940,996	0.84

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
143	2,471,338	13,553,205	0.40	103,588	0.90

## (2) 武生交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和2年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
432,831	498,527	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
25	432,831	1,901,621	0.43	15,878	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。